

## 令和3年度第1回利用者懇談会開催結果概要

- 1 日 時 令和3年12月13日（月） 13:30～15:00
- 2 会 場 埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）
- 3 出席委員 青柳委員、石崎委員、井上委員、大野委員、高村委員、根岸委員、  
藤田委員、本橋委員、  
事務局 諸角所長、菅原副所長、鎌田副所長、薄井事業コーディネータ  
上木事業・相談担当部長、金子管理担当課長
- 4 あいさつ 諸角埼玉県男女共同参画推進センター所長
- 5 委員長、副委員長選出  
委員長 本橋委員  
副委員長 石崎委員
- 6 議 事  
(1) 令和3年度事業概要について 資料に基づき諸角所長が説明  
(2) 意見交換

### 【質疑・意見】

委員：

トライアル共催事業はどのような形で募集しているのか。

事務局：

センターに登録している団体や女性チャレンジ支援ネットワークに登録されている団体から、男女共同参画をテーマとする講座をセンターで行いたいという相談があった時に、共催できるものかお互いに検討して事業を開催していただくものである。ホームページ等でトライアル共催事業を紹介している。

委員：

今回の事業で大変若い方の感想がある。PR方法が変わったので、こういう参加の方がいるのか。あるいは、ユーチューブを配信しているので、その結果このような感想が寄せられることが多いのか。

事務局：

大学の先生が大学において学生に聞いた方がいいと言ってくださり、来ていただくこともある。また、ユースジェンダープロジェクトに参加している方が、周りの方を誘っていただくこともある。これまで若い方が参加いただけないという課題があったため、ホームページ

だけに掲載するのではなく、フェイスブックを新たに昨年の末から開設し、より多くの方が利用していただけるような工夫をしたところも理由のひとつと思っている。

委員：

動画でアーカイブのような形でセンターのホームページからアクセスできるとオンライン授業で活用できるのではないか。今は期間を区切ってユーチューブ動画を配信しているが、これまで撮った動画をアーカイブのような形で視聴できるような検討は考えているのか。

事務局：

今のところは考えていないが、講演等をしていただいた先生と相談し、御意見を踏まえ検討したい

委員：

このセンターに集まりにくい方がいるので、コロナウイルスが収束しても動画の配信を続けていただけると参加しやすい。

事務局：

ノウハウができたので考えていきたい。

委員：

フェイスブックで講座案内など、申し込みの締め切り前にもう1回案内を出してもいいのではないか。同じ情報について期間を開けてもう1回出すというのも構わないと思っている。

事務局：

何回か申し込み締め切り近くなった時に再度掲載させていただいた。今後もやらせていただきたいと思う。

委員：

オンラインは、その時間にその日時に合わせて、いろいろな人が参加でき、手軽に使っていただくことができる。ZOOM（ズーム）など利用できるような環境を整えていただけると、本当に困っている方たちに必要な情報が届く。若い方はツイッターやインスタに流れているので、そちらもやっていただくといいのではと思う。

事務局：

ZOOM（ズーム）については、年度途中から少人数の講座では行っている。使用するにあたって、聞いていただく方のパソコンのセキュリティやバージョンなどをすべて確認した上で実施するという決まりのもとでやっている。少人数だったらそれをやらせていただけるのだが、大勢の方が聞いていただく講演会では皆様にそれをやるということが手法としてまだ固まっていないので、できていないという状況がある。順次やり方を考えていきたい。

委員：

実習で学生がここに来ること自体にすごく意味があると感じている。若者をできるだけ取り込みたいという場合、情報を広く発信するという方法もひとつである。埼玉県にはいくつかの大学があり、それぞれの学部の特徴を超えたものを男女共同参画と考えると、実習など可能であれば、コラボレーションしたいと思っている。最初は授業がきっかけになるが、その上で気づいて、そして実際に大学の図書館にない本が山のようにあり、ある程度時間を過ごすと結果も伸びてくる。実習という形で今までできていたものが、なぜできなくなったのか。可能であれば、協力して、教育という場面とセンターの企画をタイアップできる方法はないのかと思う。

また、出前講座では、担当の方が学生と話すディスカッションの時間を設けて、学生からの意見を聞いてもらったりするが、講演をしていただく方の気づきもすごく増えている。何十人の学生の話聞くことになるが、次の時に、それをまたさらに踏まえて、内容がすごくいきいきとしたものになっているように感じる。ぜひ、もっといっぱい声を聞いて、さらにまた違うところでアウトプットをしていただけたらと思う。

事務局：

実習で培ったエッセンスをもとに今の形でやらせていただいている。講義をしているもののフィードバックについては、非常に数が多いと難しいところはあるが、研究させていただければと思っている。

委員：

女性の貧困の支援者の拡大について、県ではどのように支援者を見つけて、支援を拡大していったのか。

事務局：

女性の貧困の支援者の拡大に向けて、女性リーダーの講座に参加している方は地域活動を実際にやっている方が相当数で、この方たちに学んでいただくことで、地域に持ち帰っていただき、面で広げていただく。男女共同参画の意識や地域の自分たちが今抱えている課題の解決に向かっているということで、周りの人にもそういう部分を広げていき、女性の貧困問題解消に向けての一助になるのではと思っている。

委員：

With Youさいたまで外国語での相談受け付けはどうしているのか。

事務局：

外国語が必要な方は別のところを紹介させていただく。または、その方の隣につないでいただく方がいる場合は、できる範囲のところまで話を聞いてつないでいく。つなぐということが大きな役割と感じている。

委員：

私たちがつながる時にセンターまで来るのが難しいところがある。ぜひ、市町村研修を充実させるような活動をしていただけるとありがたい。

また、最近、情報ライブラリーの蔵書が増えていないような気がする。ぜひ検討していただきたい。

事務局：

市町村の研修について、第1回の初任者研修は集合で行っているが、専門研修は主催事業を市町村にお知らせをして、動画配信や参加していただくものについて案内をしている。同時に相談関係や、事業実施についての相談等もいただいている。

情報ライブラリーの蔵書については予算が厳しい中ではあるが、方針を持って今日的な課題等に対応した本を揃えるように努めて参りたい。

委員：

離婚して間もなく手立てができていない方などは、どう動いていいかわからない。そういう方がユーチューブ配信を見ることで、情報で引っ張られることができる。そういう場合に、例えば地元のセンターで配信動画を見ることができるようになっていただくと、情報のツールをお持ちでない方、あるいは、そこに仲間とだったら頑張れるという思いがする方が結構いるように思う。市町村の男女共同参画センターという拠点で、ぜひ視聴できるように日時を設定していただき、様々な課題を抱えている方々に配信できるという情報提供をしていただけるといいのかなと思う。

事務局：

この日という設定でやっていくというのは考えられると思う。ご意見をいただいたので考えていきたい。

委員：

コロナ禍でオンラインセミナーにより配信していくケースが多いが、リアルとオンラインのハイブリットでやりたいと思っても、センターはまだWi-Fiが整っていない。使い勝手の良い方向に進んでいただければと思っている。

事務局：

喫緊の課題だと認識はしている。そのように使いたいという要望も多い。公の施設として県民の方々に利便性よく使っていただくためにも、今となっては必須だと思っている。努力していきたい。

委員：

障害という困難を抱えている女性がつながれる場、気づける場所として、男女共同参画推

進センターでの講座や相談、窓口は重要であると思う。このような困難を抱えた女性の支援取り組みをされる中で、外見上分かりにくい障害を抱えた女性の支援も目配りいただけるとありがたいと思う。

事務局：

長い間、男女共同参画推進センターで男女共同参画の啓発を行ってきたところであるが、見えない部分をみんなに分かっていただけるようなことも最近の大きな課題と思っている。